

5 年表／社団法人日本溶接協会この10年の歩み

年次	日本溶接協会事項	溶接界事項, 関連事項, 一般事項
1999年 (平成11)	<ul style="list-style-type: none"> ○粉じん障害防止対策推進運動実施計画書に基づき、粉じん障害防止対策ポスター作成。 ○JAB（日本適合性認定協会）から日本で初めて要員認証機関として認定取得。（3月9日） ○臨時専門委員会「鉛フリーはんだの規格化のための研究開発」（LFP）委員会設立。 ○NHK総合TV「オトナの試験」で中部地区溶接技術検定委員会や溶接技能者評価試験のよう放送。（6月16日） ○WES 8107（構造物の溶接作業に関する指導者の認証基準）改正（8月1日付）で、改正点と受付業務変更発表。 ○創立50周年記念式典を東京プリンスホテルで開催。（11月24日） 	<ul style="list-style-type: none"> ○本州四国連絡橋全ルート開通。 ○メガフロート空港実証実験開始。（8月10日） ○男女共同参画社会基本法成立。（6月23日）
2000年 (平成12)	<ul style="list-style-type: none"> ○「21世紀の扉を開く溶接・接合技術—考えてみませんか、ものづくりの原点を—」をテーマに2000国際ウエルディングショー大阪で開催。（4月12～15日） ○九州地区溶接技術検定委員会による「九州溶接マイスター」制度発足。（3月17日） ○溶接棒部会「フラックス入りワイヤの現状と将来」まとめる。 ○労働省「第5次粉じん障害防止総合対策推進要綱」の重点対策に基づき、アーク溶接作業者を対象に特別教育に準じた「粉じん教育」実施決定。 ○第26期第51回通常総会席上、藤田譲会長「溶接会館」建設構想を示す。（5月31日） ○鉛フリーはんだ規格化のための研究開発プロジェクト委員会が芝浦工業大学で成果報告発表会開催。（6月22日） ○技術基準・認証委員会で発電設備用溶接士ならびに溶接施工法資格認証業務開始。（8月1日） ○IIW資格日本認証機構（J-ANB）設立。国際溶接技術者認証制度発足。 ○日本ロボット工業会の承認を経て、溶接ロボットそのものの溶接基本仕様を証明する「建築鉄骨溶接ロボット型式認証」制度制定。2001年1月からスタート。 ○CIW認定の企画WES 8701を改訂し、審査項目・品質保証体制などを明確化。 	<ul style="list-style-type: none"> ○世界の粗鋼生産が初の8億t台突破。 ○松下溶接システムが業界初のフルデジタル制御ティグ溶接機開発。 ○2000年問題のうち関日問題が発生。コンピュータの不具合が複数発生。 ○白川英樹筑波大学名誉教授ノーベル化学賞受賞。 ○BSデジタル放送開始
2001年 (平成13)	<ul style="list-style-type: none"> ○ロボット溶接研究委員会編「建築鉄骨ロボット溶接入門」（産報出版）刊行。 ○IIW日本認証機関J-ANBでIIW国際溶接技術者資格認証制度の特例措置が開始。（4月1日） ○NEDO委託の鉛フリーはんだ材料の特性およびその継手特性の評価・試験方法を標準化し、JIS化原案作成目的の「環境負荷低減化に対応したはんだ接続に必要な試験方法等の標準化委員会」を設立。（4月21日） 	<ul style="list-style-type: none"> ○ITを用いた溶接遠隔管理などバーチャルエンジニアリング実用化。 ○日立製作所で銅合金向けFSW技術開発。 ○TWI主催で日本初の「FSW国際シンポジウム」が神戸市で開催。 ○NEDOプロジェクト「溶接技術の高度化による高効率・高信頼性溶接技術」スタート。 ○わが国初の独・レーザ・ライン社製半導体レーザが丸文から販売開始。 ○川崎重工業と川崎製鉄が大径ラインパイプ用

2002年 (平成14)	<ul style="list-style-type: none"> ○「ITがひらく溶接・接合新時代」をテーマに2002国際ウエルディングショーが東京で開催。(4月24～27日) ○WES 8110 (建築鉄骨ロボット溶接オペレータの技術検定における試験方法及び判定基準)の改正, WES 2002 (建築鉄骨ロボット溶接オペレータの技術検定における試験方法および判定基準=追補1)が施行されたことを受け, ロボット溶接オペレータ資格取得のための特別講習開催。(6月15, 16日) ○安全衛生・環境委員会で「溶接安全衛生マニュアル」(産報出版)刊行。 ○JIS Z 3410 (溶接作業指導者認証基準)に基づく講習会用テキスト「新版 溶接実務入門」(産報出版)刊行。 ○IIW国際溶接技術者資格取得のための特例措置でIWS資格について工業高校以外の高等学校卒業者の受講・受験が認められる。 ○JIS Z 3821 (ステンレス鋼溶接技術検定における試験方法及び判定基準)の改正に基づく評価試験を実施。(10月1日) 	<ul style="list-style-type: none"> 鋼管の全自動電子ビーム溶接システム開発。 ○野依良治名古屋大学教授ノーベル化学賞。 ○国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律(グリーン購入法)制定。 ○中央省庁再編, 1府12省庁制へ。 ○小泉純一郎内閣発足。 ○アメリカ同時多発テロ事件発生。 ○溶接材料生産・出荷実績が3年ぶりに30万t台割れ。 ○経済産業省の5カ年計画「フォトン計測・加工技術プロジェクト」終了。 ○日立製作所でFSWによる異種金属溶接技術開発。 ○川崎重工で造船向け50mm厚のアルミニウム合金接合にFSW適用。 ○小柴昌俊東大名誉教授ノーベル物理学賞, 島津製作所・田中耕一ノーベル化学賞。 ○ガソリン乗用車排ガス規制強化。 ○国内で大型風力発電設備の建設相次ぐ。 ○政府が知的財産戦略大綱を制定。 ○日産自動車がアルミニウム合金製電気自動車「ハイパーミニ」発表。 ○中小企業の新しい協業形態「ものづくりネットワーク」盛んに。 ○ユーロ通貨・紙幣流通開始。 ○住民基本台帳ネットワーク開始。
2003年 (平成15)	<ul style="list-style-type: none"> ○建設部会「溶接不具合防止マニュアル」完成。 ○特殊材料溶接研究委員会が東京會館で設立50周年記念式典開催。(6月5日) ○規格委員会が経済産業省産業技術環境局標準部, 軽金属溶接構造協会, 日本チタン協会, 摩擦圧接協会, 発電設備技術検定協会など関係機関と国際規格化への対応を中心とした意見交換の場として「溶接規格連絡会」開催。(5月16日) ○特殊材料溶接研究委員会で「ステンレス鋼溶接トラブル事例集」(産報出版)刊行。 	<ul style="list-style-type: none"> ○東芝「溶接技能デジタル化システム」実用化へ。 ○溶接材料生産が2年連続の30万t台割れ。 ○アーク溶接ロボット出荷実績9,896台と過去最高。 ○新加古川大橋上り拡張工事で, 1680m²のアルミニウム合金床板をFSWで接合。 ○鉛フリーはんだ試験法JIS制定公表。(6月20日) ○マツダが自動車アルミボディ向けSFW(点摩擦溶接法)開発。 ○カンタムエレクトロニクスがCO₂レーザのファイバー伝送成功。 ○2003年上期溶接機市場2ケタ増ペースで回復基調。 ○大阪大学接合科学研究所と神戸製鋼所が溶接・接合分野の研究で包括的提携。 ○地上245mのデジタル放送用鉄塔「瀬戸タワー」稼働開始。 ○経済産業省「人間協調・共存ロボットシステムの研究開発」で働く人型ロボットの最終成果発表。 ○燃料電池バスが東京都営バスにより運行開始。 ○東京モーターショー2003でトヨタが新型燃料電池ハイブリッド車「Fine-N」発表。 ○世界の造船建造量が日本・韓国・中国で83%のシェアに。 ○中国でSARS流行。

2004年 (平成16)	<ul style="list-style-type: none"> ○粉体接合・加工技術研究委員会が「溶接・接合プロセス研究委員会」へ名称変更。(3月11日) ○宮田隆司名古屋大学教授が新会長に就任。(6月10日) ○「世界をつなぐ溶接・接合技術—日本からアジアへ—そして世界へ—」をテーマに大阪で2004国際ウエルディングショー開催。(7月14～17日) ○ガス溶断器の品質・安全を強化する新認定規則開始。(10月1日) ○AWF(アジア溶接連盟)の設立総会をフィリピン・マニラで開催。初代会長に宮田隆司日溶協会長が就任。(10月8日) ○第50回全国溶接技術競技会中部地区支部静岡大会開催。(10月23, 24日) 	<ul style="list-style-type: none"> ○地上デジタルテレビジョン放送開始。 ○川崎重工業ステンレス車両の溶接工程をYAGレーザー溶接に全面切り替え。 ○IIW年次大会大阪大会開催。(7月11～16日) ○独・IPGレーザー社ファイバーレーザーで出力10.4kW実現。 ○富士重工小型ジェット機の主翼にFSW適用。 ○2000年度国勢調査で溶接・溶断工就業者数23万8,501人で前回は15%減少。 ○労働者派遣法改正で製造業への労働者派遣解禁。 ○日系企業の海外自動車生産が980万台で、6年連続で前年実績を上回る。 ○国立大学法人化。 ○新潟中越地震発生。(10月23日) ○鳥インフルエンザ感染発生。
2005年 (平成17)	<ul style="list-style-type: none"> ○JISまたはWESに基づいて実施している溶接技術検定の溶接技能者に発行している適格性証明書の記載方法の一部変更とデザインを変更。 ○ホームページ上でWES規格公開。 ○四国地区溶接技術検定委員会で第1回「溶接マイスター四国」に8人認定。(9月11日) ○日溶協、タイ溶接協会、フィリピン溶接協会の3団体による「溶接管理技術者認証システム」実施に関する協定書調印式開催。(12月13日) 	<ul style="list-style-type: none"> ○日溶協中部地区支部委員会と産報出版主催で、中部地区初の溶接・レーザー総合技術展「HUBTEC2005ものづくり中部」がポートメッセ名古屋で開催。(6月30日～7月2日) ○光産業技術振興協会調べの「光産業の将来ビジョン」で2015年には8兆円市場になると予測。 ○東芝で溶接技能デジタル化システム「スキル・デジタイザ」第1号機が経済産業省産産連携製造中核人材育成事業の「OKINAWA型・実践的高度溶接技術者の育成事業」に採択。国立沖縄工業高等専門学校へ。 ○溶接ロボット出荷額1,000億円突破。 ○溶接機市場3年連続プラス成長で生産額532億円超。 ○自動車リサイクル法施行。 ○青色発光ダイオード訴訟で発明者に対し一審より大幅減の8億円を支払うことで和解。 ○日本初の浮上式リニアモーターカーの旅客線「リニモ」が愛知県で開業。 ○中部国際空港が開港。 ○スマトラ沖地震発生。(3月29日)
2006年 (平成18)	<ul style="list-style-type: none"> ○「溶接情報センター」を構築し、会員や一般向けに溶接・接合技術の知識と情報発信。(2月20日) ○「いまここから始まる新しいステージ—溶接・切断・表面改質・検査のソリューション」をテーマに東京で2006国際ウエルディングショー開催。(4月12～15日) ○フィリピン・マニラのTESDAでWES溶接管理技術者2級のセミナーと評価試験実施。(8月4～10日) ○インドネシア溶接協会代表団の表敬訪問を受け、協力体制の覚書を取り交わす。(10月13日) ○溶接棒部会「技術委員会五十年史」発行。 ○マイクロソルダリングの教育・認証フェスタの開催、技術賞の表彰を開始。(10月11日) 	<ul style="list-style-type: none"> ○国際ロケットH-I B燃料タンクの円周溶接にFSW採用。 ○大分県高等学校溶接技術連絡協議会と大分県共催で第1回大分県高等学校溶接競技大会を大分県立大分高等技術専門校で開催。(8月8日) ○岡山県の工業高校が県立備前緑陽高等学校で「高校生ものづくりコンテスト」開催。(12月16日) ○荒田吉明大阪大学名誉教授に平成18年度の文化勲章。 ○京都議定書発効。 ○環境保全のための規制強化で日本版RoHS施行。(7月1日) ○日本国際博覧会(愛知万博)「愛・地球博」開幕。 ○インドネシア・ジャワ島南西沖地震。(5月27日)

2007年 (平成19)	<ul style="list-style-type: none"> ○原子力研究委員会が東京の飯田橋レインボービルで「50周年記念第38回国内シンポジウム」開く。(2月7日) ○第1回「FSW情報交換会」開催。(7月26日) ○溶接技能者受験者数前年比増傾向で10万人超える。 ○インドネシア溶接協会と協力協定締結。(11月30日) ○CIW認定の規格WES 8701を改正し、名称も「溶接構造物非破壊検査事業者等の認定基準」に変更。新規格への移行措置を開始。 ○団体会員制度を改訂し、4級・5級団体会員を新設。 ○理事会直下の組織である「運営委員会」を「総合企画会議」に改組。 ○溶接連合講演会を(株)溶接学会・産報出版(株)と共同開催開始。 ○東北地区検定委員会の実技試験場稼働開始。 	<ul style="list-style-type: none"> ○経済産業省中小企業庁で、中小ものづくり高度化法に基づく「特定ものづくり基盤技術」および「中小企業の特定ものづくり基盤技術」の高度化に関する指針に「溶接技術」を追加。 ○第39回技能五輪国際大会で日立製作所日立事業所の小林真己選手が溶接種目で金メダル獲得。 ○厚生労働省外国人雇用者調査で、2006年6月時点で20万人突破。 ○世界初のハイブリッド列車がJR東日本の小梅線で運行開始。 ○新潟県中越沖地震。(7月16日) ○スマトラ島沖地震。(9月12日)
2008年 (平成20)	<ul style="list-style-type: none"> ○細則を改正し、移行期間を設定して支部制度から指定機関制度への移行を決定。(1月31日) ○「ものづくりルネッサンスー溶接トータルソリューションーテーマ」に大阪で2008国際ウエルディングショー盛大に開催。(4月12～15日) ○溶接情報センターで溶接教育訓練用動画公開。 ○電気溶接機部会がCDブック「アーク溶接の世界」(産報出版)刊行。 ○各溶接協会からの申請により指定機関への移行を開始。(8月1日) ○WES 8103(溶接管理技術者認証基準)の改正案を承認し、改正へ。(11月1日) ○化学機械溶接研究委員会が東京の世界貿易センタービルで「50周年記念シンポジウム」開催。(11月19日) ○日本工業標準調査会標準部の第18回溶接技術専門委員会の席上、2008年国際標準化アクションプランに重点を置くTC44、SC3の進捗状況報告。 ○はんだ・微細接合部会が発足によるシンポジウムを東京の総評会館で開催。(11月12日) ○支部制度から指定機関制度への移行完了。(12月1日) ○IIW国際溶接技術者資格取得のための特認コースを開始。 	<ul style="list-style-type: none"> ○NEDOプロジェクト「鉄鋼材料の革新的高強度・高機能化基盤研究開発」2年目へ。 ○第1回九州地区高等学校ものづくり溶接競技大会が大分県立大分高等技術専門校で開催。 ○山九が第1回グローバル溶接技術競技大会開催。(11月21日) ○羽田空港D滑走路建設工事棧橋部ジャケット第1号基据付工事完了。 ○小林誠・益川敏英名古屋大学特別招聘教授にノーベル物理学賞。南部陽一郎シカゴ大学名誉教授にノーベル物理学賞。下村脩ボストン大学名誉教授にノーベル化学賞。 ○松下電器産業が社名をパナソニックに変更。 ○外国人研修・実習制度で受け入れ団体許可制へ。 ○中国・四川省大地震発生。(5月12日) ○世界的金融危機の引き金となる証券会社リーマン・ブラザーズが経営破綻。 ○アメリカ合衆国大統領選挙が施行され、バラク・オバマ氏が大統領に。 ○公益法人改革に関する公益法人関連三法施行。
2009年 (平成21)	<ul style="list-style-type: none"> ○船舶・鉄構海洋構造物部会が豊中市の千里ライフサイエンスセンターで発足60周年記念パーティ開催。(5月21日) ○第31期第60回通常総会の席上、宮田会長が平成23年度の「溶接会館」竣工に向け具体的建設計画に着手したことを明らかに。(6月11日) ○マレーシア溶接協会と覚書を取り交わす。(7月15日) 	<ul style="list-style-type: none"> ○2005年度国勢調査で、金属溶接・溶断作業者は21万9,977人に。 ○鉄骨需要が34年ぶりに500万t台となる見通し。 ○豚を起源とする新型インフルエンザが世界的に流行。